

業界別面接対策

事業再生業界への 転職パーフェクトガイド



事業再生のプロセスと必要スキル



事業再生のプロセスと必要スキル

フェーズ	現状認識(DDデューデリジェンス)	数値計画策定	モニタリング	実行支援
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> 財務DD 事業DD 金融機関取引整理 債権者との利害調整 資金繰りの策定 	<ul style="list-style-type: none"> 損益改善施策の検討 数値計画の策定 利害関係者への提示 債権者への協議・交渉 債権者からの同意 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画の進捗確認 数値乖離要因の把握 損益改善施策の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 損益改善施策の実行 経営意思決定の示唆 経営会議体への出席
主な成果物	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務DD報告書 ✓ 事業DD報告書 ✓ 金融機関取引 ✓ 資金繰り見込 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営改善計画書 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ モニタリング報告書 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営状況に応じた報告等
主な依頼主	<p>債権者(主に金融機関及び保証協会)</p> <p>公的機関(地域経済活性化支援機構_通称:REVIC、再生支援協議会等)</p>			<p>クライアント自身</p>
必要スキル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Word、Excel、PowerPointのスキル ✓ BS(貸借対照表)及びPL(損益計算書)の理解 ✓ 監査法人での監査経験 ✓ 市場調査の経験 ✓ 業務及び損益改善の経験 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務プロジェクションモデル(BS・PL・CF)の策定 ✓ 業務及び損益改善の経験 ✓ 経営陣と計画合意に向けてのコミュニケーションスキル ✓ 事業計画の数値を数パターン策定出来る想像力 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 会議を設計するスキル ✓ 損益予実管理スキル ✓ Word、Excel、PowerPointのスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営陣のモチベーション支援 ✓ 経営陣からの信頼 ✓ 経営改善のスピード

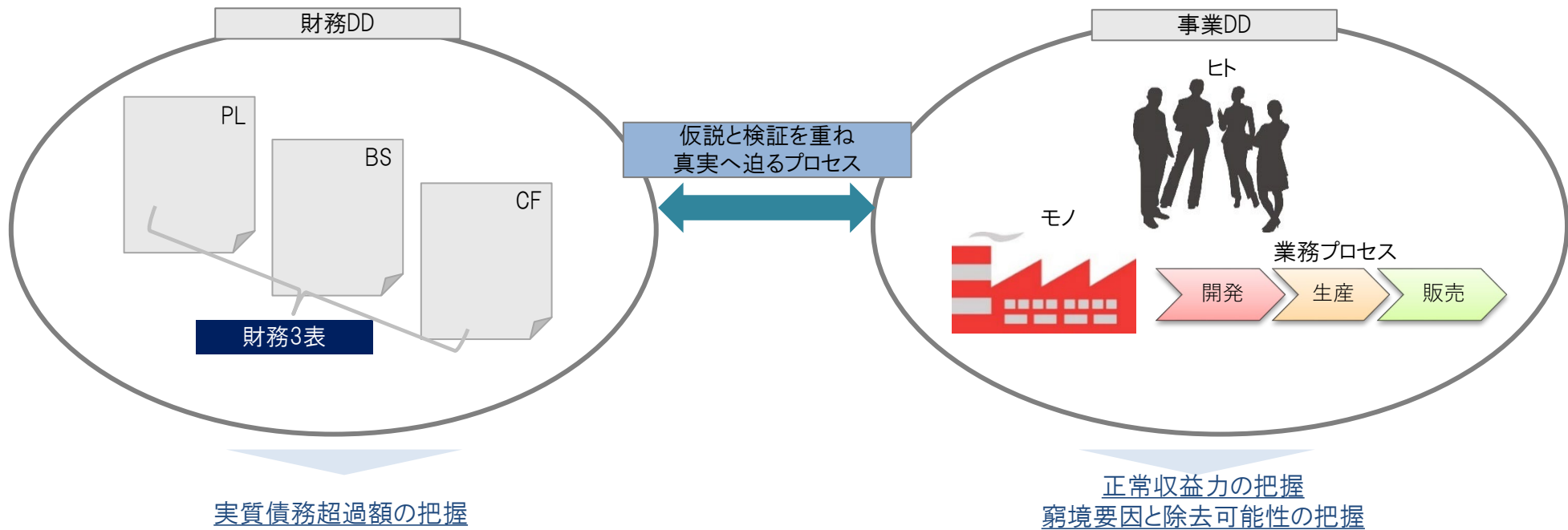
現状認識フェーズ



現状認識フェーズ① 概要

- ✓ 現状認識フェーズでは、財務DD及び事業DDを通じて、対象会社の実態を把握する。
- ✓ 財務DDでは実質債務超過額の把握を行い、事業DDでは正常収益力(クライアントの収益力・本業の1品当たりの利益額に迫る)の把握、窮境要因及び除去可能性の特定が主たるスコープである。
- ✓ 企業(クライアント)にとって、強みは裏を返せば、その強みが無くなることは、弱みになるため、DDというプロセスや手続きを通じて、現状認識を行い、依頼主である債権者(主に金融機関)に、成果物を提出し、報告を行う。

フェーズ	現状認識(DDデューデリジェンス)					数値計画策定					モニタリング			実行支援		
実施事項	財務DD	事業DD	BK(金融機)取引整理	債権者との利害調整	資金繰りの策定	損益改善施策の検討	数値計画の策定	利害関係者への提示	債権者への協議・交渉	債権者からの同意	事業計画の進捗確認	数値乖離要因の把握	損益改善施策の確認	損益改善施策の実行	経営意思決定の示唆	経営会議体への出席



現状認識フェーズ② 財務DDの目的

- ✓ 事業再生局面での財務DDとは、対象会社の簿価の貸借対照表を、全勘定科目を精査し、時価に置き換える手続きのことである。
- ✓ 結果的に、窮境局面の企業の貸借対照表は、毀損していることが多く、資産が目減りし、純資産の繰越利益剰余金が減額される。
- ✓ 結果的に、実態債務超過に陥るケースが多い。債権者(主に金融機関)は、当該実態の債務超過額を把握されたいため、事業再生ファームが当該額を財務DDによって、調査を行う手続きを行うことを指す。

〈貸借対照表_簿価〉

単位:百万円

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金及び預金	1,000	仕入債務	2,500
売上債権	3,000	前受金	200
棚卸資産	1,500	その他流動負債	300
その他流動資産	300	短期借入金	500
建物	1,500	長期借入金	2,500
建物附属設備	500	負債合計	6,000
機械装置	800	資本金	3,000
土地	3,000	資本剰余金	1,000
投資その他資産	400	繰越利益剰余金	2,000
資産合計	12,000	負債・純資産合計	12,000

時価で評価

〈実態貸借対照表〉

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金及び預金	1,000	仕入債務	2,500
売上債権	1,000	前受金	200
棚卸資産	1,000	その他流動負債	300
その他流動資産	300	短期借入金	500
建物	1,000	長期借入金	2,500
建物附属設備	500	負債合計	6,000
機械装置	300	資本金	3,000
土地	1,000	資本剰余金	1,000
投資その他資産	-	繰越利益剰余金	▲3,900
資産合計	6,100	負債・純資産合計	6,100

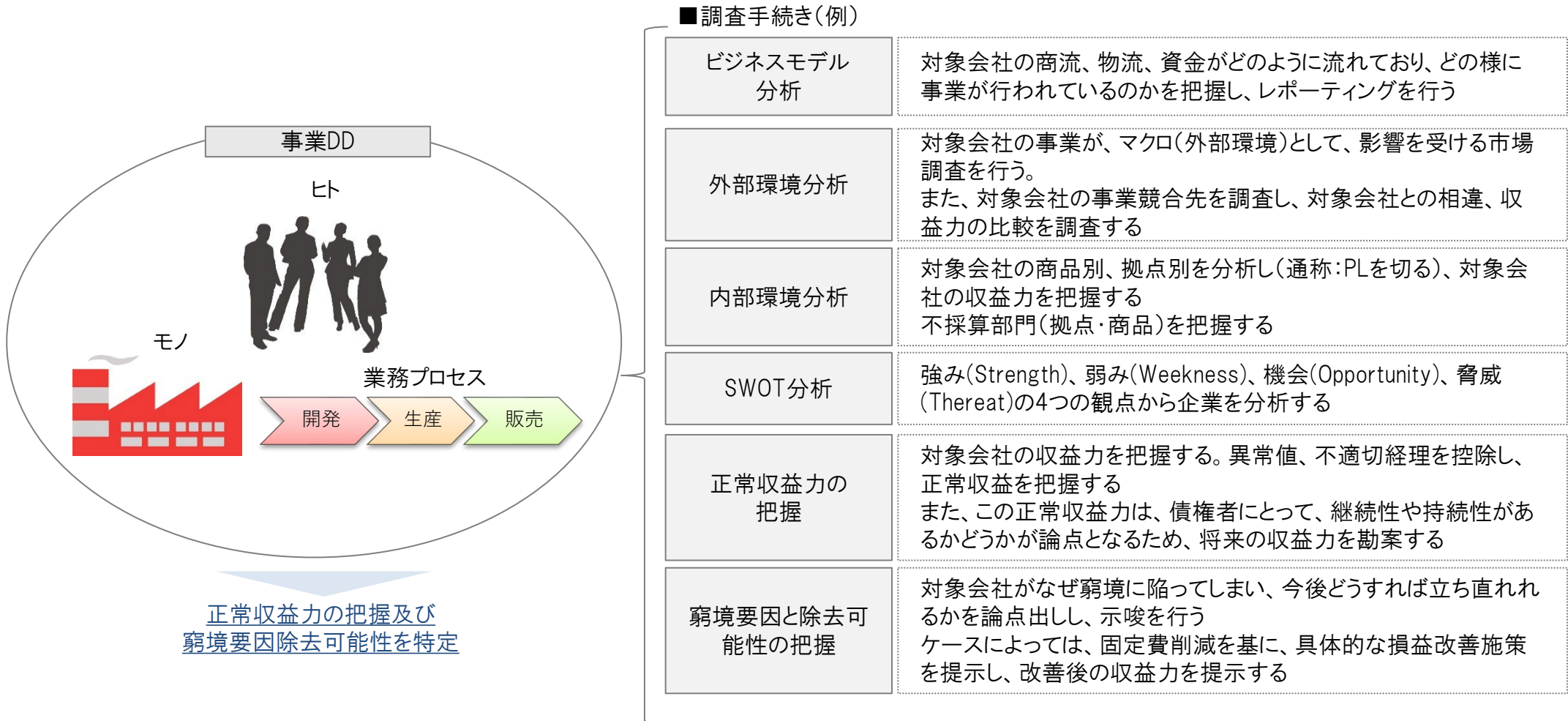
■調査手続き(例)

- 棚卸資産(在庫)
滞留及び過剰となっているものを適正価額で評価
- 売掛金
回収状況の確認と滞留債権の実在性を評価
- 有形固定資産(主に保有不動産)
取得時(簿価)ではなく、現状の価額で時価評価
- 負債側
網羅性(計上モレが無い)を確認

簿価を時価で評価することにより、繰越利益剰余金が減額され、純資産が減少
⇒事業再生フェーズの企業は、実態債務超過に陥る企業が大半

現状認識フェーズ③ 事業DDの目的

- ✓ 事業DDとは対象企業の事業を、外部環境、内部環境分析を通じて調査をする。
- ✓ 事業再生における事業DDの主たるスコープは、[正常収益力の把握](#)、[窮境要因と除去可能性の特定](#)にある。
- ✓ 対象会社の経営実態(経営資源及びプロセス)を詳細調査することで、対象会社の[現在の収益力](#)、[事業の状態](#)を把握する。



数値計画策定フェーズ



数値計画策定フェーズ

- ✓ 数値計画の策定とは、債権者(主に金融機関)と合意可能且つ、実現可能な計画を策定するフェーズである。
- ✓ そのためには、財務モデル(BS、PL、CF)を作成するスキル、経営者と計画を合意するスキルが必要となる。
- ✓ 計画策定においては、経営陣及び利害関係者の双方が合意する計画を策定することが重要となる。



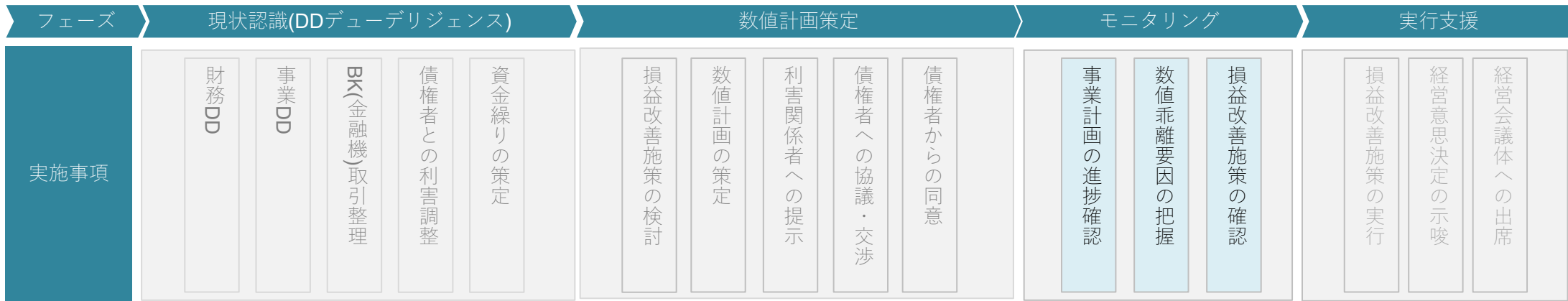
	項目	内容	必要スキル及び経験
数値計画の策定	損益改善施策の検討	財務DD、事業DDの結果を踏まえ、損益改善が図れる施策を検討する。具体的には、人件費や販管費等の固定費削減可能性及び売上高の向上施策の検討である	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 予実(予算及び実績)管理及び経営管理能力 ✓ ロジカルシンキング(洩れなく・ダブリなく、施策出しをするスキル)
	数値計画策定	削減可能な固定費を削減し、実現可能な売上向上施策を盛り込んだ、PL、BS、CFを含めた具体的な数値計画を策定する 損益改善後の債権者への弁済計画を策定する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務3表(PL、BS、CF)に基づいた事業計画策定経験 ✓ 財務、会計、ファイナンスのスキル ✓ 戦略コンサルティングファームでの勤務経験 → 問題解決能力やロジカルシンキング
	利害関係者への提示	策定した事業計画を利害関係者(主に金融機関)へ提示し、実現可能性について協議する。この際に取引先銀行が一堂に会す、通称BKMTG(バンクミーティング)が行われる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金融機関との折衝経験 ✓ 金融機関での勤務経験 ✓ 経営陣とや金融機関計画合意するコミュニケーションスキル ✓ 粘り強さ
	債権者への協議・交渉	私的整理の場合は、得意先や仕入先に知られずに、事業再生ファームが調整役として、債権者(主に金融機関)と債務者(対象会社)との利害調整を行う	
	債権者からの同意	利害関係者との協議を得て、計画が合理的且つ実現可能と認められると、債権者からの同意(合意)を得る	

モニタリングフェーズ



モニタリングフェーズ

- ✓ モニタリングの目的は数値計画の策定フェーズで策定した事業計画の進捗を管理し、経営陣に対し、損益改善策の実行を促すことである。
- ✓ 業務内容としては事業計画の進捗確認、数値乖離要因の把握、損益改善施策の確認が挙げられる。
- ✓ モニタリングフェーズにおいて必要なスキルは予実管理スキルと経営陣とのコミュニケーションスキルである。



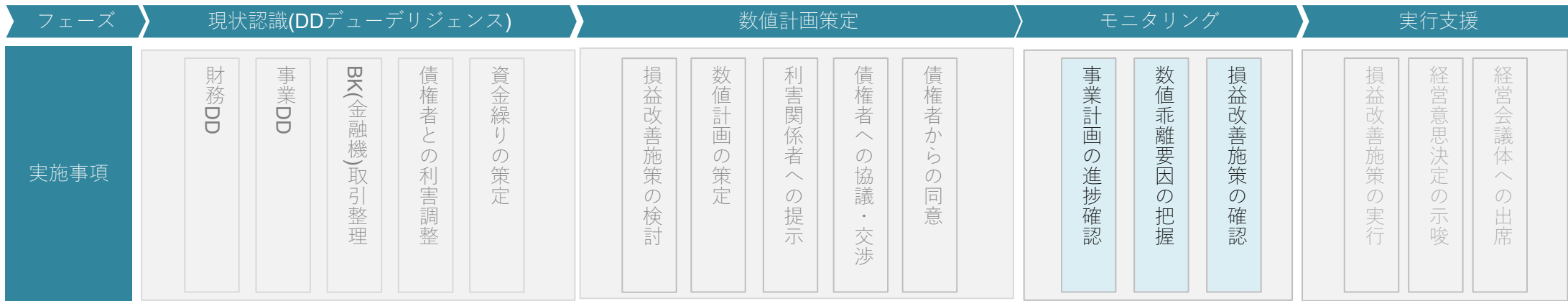
	項目	内容	必要スキル及び経験
モニタリング	事業計画の進捗確認	数値計画策定フェーズで策定した事業計画の進捗を管理する。月に1度程度開催される、進捗会議にて現状の進捗及び次年度以降の方針を決定する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 予実管理スキル ✓ 会議を設計するスキル
	数値乖離要因の把握	事業計画と実際の経営結果に乖離が生じた場合に、両者間の差異を特定し、原因解決策を示唆する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 戦略コンサルティングファームでの勤務経験 ✓ 原因を特定し、解決策を実行するスキル
	損益改善施策の確認	策定した損益改善施策が実行されているか確認し、未実行の場合経営陣に損益改善施策の実行を促す	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営陣からの信頼を得るスキル



実行支援フェーズ

実行支援フェーズ

- ✓ モニタリングの目的は数値計画の策定フェーズで策定した事業計画の進捗を管理し、経営陣に対し、損益改善策の実行を促すことである。
- ✓ 業務内容としては事業計画の進捗確認、数値乖離要因の把握、損益改善施策の確認が挙げられる。
- ✓ モニタリングフェーズにおいて必要なスキルは予実管理スキルと経営陣とのコミュニケーションスキルである。



	項目	内容	必要スキル及び経験
モニタリング	事業計画の進捗確認	数値計画策定フェーズで策定した事業計画の進捗を管理する。月に1度程度開催される、進捗会議にて現状の進捗及び次年度以降の方針を決定する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 予実管理スキル ✓ 会議を設計するスキル
	数値乖離要因の把握	事業計画と実際の経営結果に乖離が生じた場合に、両者間の差異を特定し、原因解決策を示唆する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 戦略コンサルティングファームでの勤務経験 ✓ 原因を特定し、解決策を実行するスキル
	損益改善施策の確認	策定した損益改善施策が実行されているか確認し、未実行の場合経営陣に損益改善施策の実行を促す	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営陣からの信頼を得るスキル

事業再生業界の転職事例



事業再生業界の転職事例

外資系
コンサルファーム
コンサルタント ▶ 事業再生ファーム
コンサルタント
年収800万円 年収810万円

事業会社
営業 ▶ 事業再生ファーム
事業再生
コンサルタント
年収420万円 年収420万円

Web
マーケティング
フリーランス ▶ 事業再生ファーム
コンサルタント
年収500万円 年収550万円

信用金庫
営業 ▶ 事業再生
コンサルタント
年収550万円 年収600万円

業界の魅力



事業再生業界の魅力

事業再生業界の 3つの魅力！

- ① **事業と財務**双方に精通できる！
- ② **プロ経営者・CFO・コンサルタントとして独立**
など、多様なキャリアパスが用意される！
- ③ **困窮した事業を立て直すという大きなやりがい**を感じられる仕事！
雇用、地域経済を守ることができる

経営 × ファイナンス 業界転職支援実績No.1

ご相談・ご質問がある方はお気軽にお問い合わせください。

- 1 志望業界の **非公開 & 未経験OK** の求人をご紹介
- 2 志望業界転職後の **キャリアの選択肢** を解説
- 3 志望業界の **マイナス点、個別企業ごとの優劣** をご説明
- 4 志望企業へ **社長や幹部経由の特別ルート** での応募も可能
- 5 内定を取り切る **マンツーマン面接対策** を実施

☆志望業界に直接転職できない方も、**1社挟んで業界にたどり着ける最短ルート** を伝授

無料でキャリア相談

<https://yamatohc.co.jp/lp-3/?linkid=https://yamatohc.co.jp/dd/wprevitalization>